

# 晴るばる

JA KITAHARUKA  
PR brochure  
HARUBARU



vol. 200  
2025. 1月号

北はるかもち米生産組合収穫感謝祭



# 令和7年 新年のご挨拶

代表理事組合長 小林 治雄



新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては令和7年新春をご家族の皆様とともに穏やかに迎えられていることと思ってお慶び申し上げます。また旧年中も地域の農業振興にご尽力いただくとともに多岐にわたる農協事業へのご支援、ご協力をいただきましたことに心より感謝しお礼申し上げます。

また美深、下川、中川、音威子府の四自治体には昨年中も多くのご支援をいただいたことに深く感謝し、組合員を代表してお礼申し上げます。昨年元日に能登半島を震度7クラスの大地震が襲い多くの犠牲者が出ました。農業施設を含む多くの社会インフラのみならず、農業生産基盤である水田や農地も甚大な被害を被りました。また、全国的に見ても、大きな台風被害こそありませんでしたが、北日本を除いて夏は記録的な猛暑に襲われています。126年に及ぶ観測史上、前年の令和5年と並んで最も暑い夏でした。猛暑以外にも各地で局地的な大雨被害などの自然災害が多発しました。道北は比較的天災

が少ない地域ではありますが日頃から命と生活を守る準備を怠らないでください。世界に目を向ければ、3年目を迎えたロシアによるウクライナ侵略は未だに解決のめどが立たず、中東を含め国際的不安定情勢が常態化しています。本年はさらに、米国にトランプ政権が誕生し、その運営によって国際政治情勢と経済情勢の不透明感が増すことが懸念されています。今後さらに円安に進むのか、或いは円高に戻るのか経済の専門家でも意見が分かれています。本年こそは紛

## もくじ

2025. 1

小林組合長新年のご挨拶	2
役員新年のご挨拶	3
中央会樽井会長年頭挨拶	4
組織代表者挨拶	5
組織代表者挨拶・年末年始業務日程	7
フォトレポート 美深・下川	8
フォトレポート 下川・中川	9
JAグループ北海道の農政活動強化に向けて	10
理事会報告	
営農情報	11
警察より・組合員の異動・編集後記	12

### 今月の表紙



#### 北はるかもち米生産組合収穫感謝祭

12月11日(水)下川町五味温泉にて収穫感謝祭が開催されました。収穫感謝祭の前段には講習会として上川農業改良普及センター上川北部支所 谷地域係長より「令和6年度もち米の生育概要等について」、もち米生産組合 長谷川一夫さんより「直播について」、ホクレン旭川支所 米穀課 高木さんより「もち米情勢等について」、NOSAI道央統括センター上川北支所 業務課 高畑さんより「収入保険について」と題して講演が行われました。中でも、生育概要等で紹介された消化液を使用した栽培比較や試験的に実施された直播栽培は関心が高く質疑応答が繰り返される場面も見られました。講習会終了後の収穫感謝祭では、北はるかもち米生産組合 小原 意玲副組合長より開催の挨拶として今年度の作柄や組合活動等について話され感謝の言葉を述べました。また、下川町 田村町長、北はるか農業協同組合 岡田常務理事、上川農業改良普及センター上川北部支所 菊池支所長、ホクレン農業協同組合連合会旭川支所 南支所長から来賓の挨拶をいただきました。懇親会は下川町議会 我孫子議長の乾杯により祝宴が始まり、お互いの出来秋に対する思いや苦勞をたたえと共に、来期に向けての英気を蓄えていました。結びは、下川町土地改良区 上田理事長の万歳三唱にて閉会いたしました。

争が終結し安定した国際情勢になることを願います。

昨年の北はるか管内の営農状況は地域差が大きなものとなりました。融雪は平年より10日ほど早く進みましたが播種時期の5月中旬からは雨が多く北部地域ほど春作業が遅れました。その後も低温や天候不順により管理・防除作業など大きな支障が出て、小豆・甜菜・蕎麦など大きな減収となった地区が出ました。また、アスパラガスは収穫開始直前の霜被害と低温、さらに昨年の猛暑の影響から大きく収量減となりました。一方で、麦・水稻は持ち直して平年並み、南瓜は期間を通じて高値での取引となりました。このことから農産青果取扱金額は計画を若干下回ると思われます。

酪農・畜産では、生乳は生産抑制期を抜け乳価も一定程度上がりました。7月までは個体価格も持ち直してきましたが7月下旬から個体価格が再暴落、160円

台の記録的な円安の影響もあり配合・資材価格高から農家経済は厳しいものとなっております。畜産もインバウンド消費

こそ持ち直したものの、需給のアンバランスや和牛消費の低迷などに生産費上昇が追い打ちをかけ厳しい状況が続いています。このような情勢にあっても、酪農畜産取扱金額は生乳価格の上昇と生乳・個体販売共に取扱数量の上昇により計画を上回りました。このことから、販売総合計では計画を若干上回るものと思われ

ます。昨年6月に公布・施行された改正「食料・農業・農村基本法」を基に今年3月までに決められる「食料・農業・農村基本計画」においては食品・農産品の価格転嫁を促すための法制化を進めると言われています。

昨年10月の衆議院議員選挙で長年続いた与党の安定政権から与野党拮抗による政局に変わりました。今後は食料安

全保障の観点からも党派を超えて持続可能な北海道農業のための基本計画を定めていただきたい。またその為に連合会を先頭に系統組織一体となって運動をしていく所存です。

今年北はるかにあっても「第7次中期経営計画」制定の年となります。混沌とした社会・農業情勢の中、組合活動を通じて生産者である組合員の皆様の経営と家庭を守るべく立案中です。すべての組合員に納得いただくことはできないかもしれませんが、総合農協としてどうしても残すべきサービスを守るために事業の効率化・スリム化を提案させていただきます。ご理解ください。

結びに組合員皆様のご多幸と豊穰の秋を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

## 謹賀新年

北はるか農業協同組合

代表理事組合長	小林 治雄
常務理事	岡田 博英
理事	竹本 学
理事	土田 和博
理事	内山 敦
理事	日野 秀世
理事	古川 満之
理事	谷口 直喜
理事	及川 幸雄
理事	荒谷 博文
信用担当理事	松本 芳則
金融部長	佐藤 導謙
代表監事	草刈 昇一
監事	米村 敏明
常勤監事	向井 朋博
管理部長	遠藤 良規
営農販売部長	渡辺 博紀
購買部長	丸山 覚
下川支所長	塚本 智章
中川支所長	他職員一同

# 令和7年の 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会  
代表理事会長 樽井 功



新年あけましておめでとうございま  
す。

組合員の皆様におかれましては、日々  
営農に更に邁進されておられることと  
存じます。

また、組合員・役職員の皆様が丸と  
なり地域農業の振興や地域社会の発展  
に向け、日頃より多大なご尽力をされて  
いることに対しまして、改めて敬意と感  
謝を申し上げます。

昨年の北海道農業については、春先か  
ら天候に恵まれ、各作物の生育は全般的  
に平年よりも早く進んでおりました。し  
かしながら、夏場は猛暑・豪雨による記  
録的な高温多湿の影響を受け、各作物等  
の収量および品質に影響が出た年とな  
りました。

近年、気候変動等による自然災害の多  
発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な  
円安の進行による飼料・肥料をはじめと  
した生産資材の高止まりが農業経営に  
甚大な影響を与えており、農業・農村を  
取り巻く環境は一段と厳しさを増して  
おります。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・  
農村基本法が改正され、現状に即した基

本理念の見直しと、「食料安全保障の抜  
本的な強化」、「環境と調和のとれた産業

への転換」等の実現が盛り込まれまし  
た。政府は、初動5年間を農業構造転換  
集中対策期間と位置づけ、施策を集中的  
に実行するとともに、今年3月に食料・  
農業・農村基本計画を策定するべく引き  
続き検討を進めております。

J Aグループ北海道としては、食料安  
全保障の強化と持続可能な北海道農業  
の確立のために、農地の確保および適正  
利用の強化、食料・自給飼料等の安定生  
産・供給と環境負荷軽減の両立に取り組  
みながら、それを後押しする力強い政策  
支援を求めていくことが重要と考えて  
おります。

また、昨年は第31回J A北海道大会が  
開催され、「食料安全保障の強化と持続  
可能な北海道農業の確立」、「J Aの組織  
基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、  
「アグリアクション北海道の推進による  
農業・食・J Aへの理解醸成」の3つの議  
案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・  
J A・連合会が丸となって、生産現場  
の行動変容と組合員の意思結集による

農政運動、J Aの経営管理の高度化やデ  
ジタル化の推進による業務効率化・生産  
性向上に取り組んでいかなければなり  
ません。

さらに、消費者の皆様には、J Aグ  
ループ北海道統一の情報発信のフレー  
ズである「アグリアクション北海道」を  
浸透させるとともに、効果的な情報発信  
により、今まで以上に農業・食・J Aに対  
する理解を深めていただき、J Aグルー  
プが提唱する「国消国産」の認知を広め  
てまいります。

結びになりますが、本年は巳年です。  
巳（へび）は冬眠から目覚め地上に這い  
出すことから、冬に根をはった草木が芽  
を出し「新しい種子が生まれる」という  
意味があると言われ、転じて、巳年は力  
を蓄えていたものが芽を出す「起点」の  
年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を  
意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道  
農業の飛躍の起首となること、皆様のご  
多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭  
のご挨拶いたします。



JA北はるか 青果生産振興会 美深部会  
 部長 中瀬 正美

新年あけましておめでとうございます。  
 昨年は年明け早々に能登半島地震が起  
 き、多くの方々が被災されました。  
 お亡くなりになられました方のご冥福を  
 お祈り申し上げますとともに、1日も早い  
 復興を願いたいと思います。

組合員の皆様におかれましては、新春をこ  
 家族の皆様とともに穏やかに迎えられてい  
 ることと思ってお喜び申し上げます。

昨年の営農を振り返りますと融雪は例年  
 に比べ早かったものの低温傾向が続ぎ、露  
 地アスパラにおきましては霜の影響により  
 収穫間近な若茎が凍結し収量の減収となり  
 ました。また、露地のスナップエンドウにお  
 きましては、天候の影響により大きく収量  
 を落としました。

主力作物の1つである南瓜につきまして  
 は、播種作業並びに出芽状況は良好で6月  
 上旬より本格的に定植作業が開始致しまし  
 たが、6月下旬の低温、断続的な雨の影響に  
 より、細菌性病害の発生に加え、大雨による  
 疫病、ホモプシス根腐れ病など、生産現場で  
 は非常に苦勞の多い一年となりました。近  
 年の猛暑、集中豪雨など気象変動が激しい  
 中での営農が続いておりますが、今こそ農  
 業の基本に立ち返り、輪作、土づくり、透排

水性向上等への取組を行い、収量確保に努  
 めて参りたいと考えております。

我が家はスナップエンドウ、南瓜の他に  
 米麦を作付けしておりますが、昨年は「令和  
 の米騒動」といわれ、夏にスーパーからお米  
 が消え、うるち米の新米価格がかつて無い  
 程上昇致しました。残念なことに北はるか  
 の米づくりはもち米であり、「令和の米騒  
 動」の恩恵は受けませんでした。同じ稲作  
 農家として農産物の価格が上がる事は大変  
 喜ばしいことだと思っております。昨年、北  
 はるか農畜産物は販売合計額が合併後初  
 めて100億円を超えました。日頃からの  
 組合員の皆様の努力の表れであると思っ  
 ております。しかしながら、近年は飼料価格の  
 高騰をはじめ、農業機械、生産資材、生活物  
 資など価格の高騰により、農家の経営は厳  
 しい状況にあると思っております。組合員  
 一人一人が声を上げ、国の施策や農業団体  
 の組織活動によって再生産が可能であり、  
 農業が魅力ある職業と思える様な農畜産物  
 の適正価格を強く願いたいと思っております。

「北はるか青果生産振興会 美深部会」は  
 昨年7月に設立いたしました。従来は品目  
 毎で生産組織活動を行って参りましたが、  
 様々な情勢変化や栽培環境の変化が著しい  
 時代を迎え、高齢化に伴う農家戸数の減少  
 や農協職員の業務の軽減など、今後の北は  
 ろか青果物の安定した生産を図るために会  
 員が結集、協力して栽培技術の向上および  
 品質、規格の統一、並びに品種の集約などを進  
 めていくことは必要不可欠であると考え統  
 合設立に至りました。青果生産振興会 美深  
 部会は、組合員の皆様の貴重なご意見を頂き  
 ながら活発な生産組織活動を行いたいと思  
 いますのでご理解、ご協力をよろしく願ひ

申し上げます。

結びに、組合員皆様のご多幸と豊穰の出来  
 秋をご祈念申し上げます、新年のご挨拶と  
 致します。



北はるかもち米生産組合 美深部会  
 部長 後藤 博孝

新年あけましておめでとうございませう。

日頃より当組合活動において、各関係機関組  
 合員の皆様方にはご理解とご協力をいただ  
 き誠にありがとうございます。

昨年を振り返りますと、雪解けも早く、春先  
 の天候が良かった為、作業は順調に進みまし  
 た。しかし、移植後の低温、日照不足の影響に  
 より分げつが少なく、収量が心配されました  
 が、その後は天候に恵まれて順調に稲も生育  
 したため、収量、品質共にますますの年であつ  
 たと感じております。また、秋の収穫時期は近  
 年稀にない晴天で、稲刈り作業も順調に終え  
 ることができました。

近年は大きく不作になる年も無く、皆様の  
 努力と関係機関の皆様のご尽力のおかげで  
 安定したもち米の生産ができておりますが、  
 今年5月に食料・農業・農村基本法が、25年ぶ  
 りに改正された他、いまだ先の見えないロ  
 シア・ウクライナ情勢の影響による各種資  
 材や肥料の高騰で厳しい状況が続く事が予  
 想されます。この状況を乗り切るために組  
 合員、JAと各関係機関がより綿密に連携

し、お互い情報共有をする事がこの状況を  
 乗り切るために必要な事であると考えます  
 ので、今後も皆様のご協力をお願い申し上  
 げたいと思ひます。

最後になりますが、今後とも変わらぬご  
 支援、ご指導を賜りますようお願い申し上  
 げますとともに、皆様のご健康とご多幸を  
 ご祈念し簡単ではありますが、新年のご挨拶  
 とさせていただきます。



北はるか小麦生産組合 美深部会  
 部長 佐々木 秀智

新年あけましておめでとうございませう。

日頃より美深町小麦生産組合の活動にお  
 きまして、各関係機関及び組合員の皆様方  
 には各段なるご理解、ご協力をいただき、心よ  
 りお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月下旬頃から  
 暖かくなり融雪は順調に進み、4～5月の  
 好天にも恵まれ、春小麦の播種作業も順調  
 に進んだことと思ひます。6月は、多少の寒  
 気もありながらも生育は順調に進みまし  
 た。7月の刈取時期になると強雨や長雨の  
 影響で刈取判断の難しい年になってしま  
 いました。

特に刈取集団には、昨年から美深・下川地  
 区ともに初冬の春まき小麦を名寄ライ  
 ターミナルで受け入れていただく関係で、  
 搬入先が名寄になりご心配をお掛けしたこ

ともあったかと思えますが、各行政の多大なる支援により無事乾燥調製を完了することができました。各関係機関の方々には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後もご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

さて、国政では、畑地化政策により小麦の作付面積も減少するのではないかと懸念される中、我々の経営を圧迫している資材・肥料や燃料の高騰もまだまだ続いており、小麦の品種を少しでも反収の上がる品種へ切り替えていかなければならないと考えているところでございます。つきましては昨年より、春まき小麦の品種を「春よ恋」から「はるきらり」に変える運びとなりました。「はるきらり」については、昨年の製品反収量では秋まき小麦を超え、製品率も9割以上となる幸先の良い結果となっております。

最後になりますが、今度とも皆様からの活発なご意見を頂いてより良い組合になります様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



JA北はるか青果生産振興会下川支部

部長 吉田 公司

新年あけましておめでとうございます。平素よりJA北はるか青果生産振興会

下川支部の活動にはご理解とご協力心より御礼申し上げます。

昨年は、円安の長期化により、物価の高騰など経費が増加し利益に影響する状況が続きました。一方、生産現場に目を向けますと夏場に夜温の高い時期が若干続いたものの、気候には概ね恵まれ、良好な作柄でした。さらには、全国的な猛暑による品薄傾向から、各作物は比較的高値で取引され、大きく販売を減少する品目は無く、安堵いたしました。しかし、春菊での病害、フルーツマトでの特定外来生物であるトマトキバガの飛来と繁殖は、共に終盤に影響しました。トマトキバガの生態は不明点が多く、防除体系確立に向けた研究と対策の周知が望まれます。本年も生産コスト増加、輸送の脆弱化、人手不足などの課題を抱えての営農が続きますが、可能な限りコスト削減、ついで病害虫対策、夏場の高温対策、市場情報の収集を図り、良質な青果物の増産と秀品率向上を目指したいところです。

営農開始に向け、各部会では課題を明確化し、解決のために生産技術の平準化と情報共有を徹底し、所得確保実現に向け、関係機関とも一体となって臨む体制で活動いたします。

力を一つに、目標達成を目指しましょう。



JA北はるか下川町和牛組合

組合長 庄子 隆亮

新年あけましておめでとうございます。日頃より北はるか農協をはじめ各関係機関、組合員の皆様方にはご理解ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの猛威も落ち着きをみせていましたが、新年元旦に起きた能登半島地震の大きな自然災害に始まり、国内外での経済情勢の影響を大きく受け、一年を通して人災、天災、天候不順が多く見受けられた年でもありました。

下川町和牛組合のここ数年の取り組みといたしましては、繁殖雌牛への個体ゲノミック評価を活用し、牛の能力を数値化することで牛群改良の加速化に効果をもたらす早期に販売、保留の基準を判断するにも大きく役立てております。

また今後の目標といたしましては、下川町役場と協議しながら肥育牛を生産し、下川町和牛としてのブランドを立ち上げ、ふるさと納税返礼品及び販売等の活用が実現出来るよう進めていきたいと思っております。

黒毛和牛関係につきましては、物価高による消費者の購買意欲の低下、節約志向により和牛枝肉価格が低迷しています。加えて、輸入飼料、生産資材の高騰で肥育農家の購買意欲も冷え込み、全国の素牛価格低迷

にも影響を与え、その他にも畜産クラスター事業による、黒毛和牛受精卵補助事業での子牛頭数増加が影響している為、需要と供給のバランスが崩れている状態にあります。しかし、今回の価格低迷は初めて起きた事では無く、自分が黒毛和牛生産に携わってから幾度も有り、ある程度予想していたことでもありました。このピンチをチャンスに変える為にも日々、牛に感謝し、初心を忘れずブレ無い信念で基本に立ち返り、この畜産苦境を打開していこうと思っております。

今年の畜産情勢は、まだ分からない事のほうが多いですが、相場回復、景気回復、消費回復を強く願っています。

最後となりましたが、組合員皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、簡単ではございますが新年のご挨拶とさせていただきます。



JA北はるか女性部なでしこ会

部長 松崎 玲子

あけましておめでとうございます。

日頃より、なでしこ会の活動におきまして関係機関、組合員の皆様、役員の方々のご理解とご協力を、心よりお礼申し上げます。

令和6年度なでしこ会の会員は6名となりました。会員の家庭環境に合わせ活動内

容を縮小し全員が参加できるよう調整し活動して参りました。女性6人が揃えばにぎやかな時間となります。

主に座談会を実施し、7月と12月に活動し仕事や家事・育児の合間の息抜き時間に気軽に参加できるような会といたしました。小規模ではありますが、情報交換の機会があることはとても有難く、活動内容は都度変化しながら続けて参りたいと存じております。

最後に、皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げ、新年の挨拶をさせていただきます。



J A 北はるか 青年部

部長 品地 一彰

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

日頃より当青年部活動におきまして、各関係機関、組合員の皆様には多大なるご理解、ご協力を頂きまして心より御礼申し上げます。私は昨年度から引き続き2年目の部長として、活動させて頂きました。初年度は、コロナ禍で休止していた活動の復活と、下川商業高校での食育など新事業の立ち上げを行い、青年部は多忙な一年となり役員には負担をかけた事と感じていました。

今年度のテーマは「継続と取捨選択」です。活動内容は変えず、同日開催可能な企画

は同日に行う、事前に議題をまとめ役員会の開催回数を減らす等、効率化を図って参りました。これは、歴代の活動記録を活用出来た事が省力化に繋がっており、歴代の青年部員と事務局の研鑽の賜物と考えております。

当青年部も農業者人口の減少に伴い、今後の活動に支障をきたす人数になってきました。しかし、農業は、美深町、中川町、音威子府村、下川町の基幹産業です。これが破綻すると、町村の存続にも係ると自負いたします。いま一度、私たちに出来る事を考え直し、青年部が地域に何を貢献できるか、しっかりと考えていく所存であります。是非とも皆様のご協力を宜しくお願い致します。

J A 北はるかの方の更なる発展、皆様の御健康と御多幸を祈念致しまして、新年の挨拶とさせていただきます。



年末年始 業務日程	12月			1月					
	29日 日	30日 月	31日 火	1日 水	2日 木	3日 金	4日 土	5日 日	6日 月
本所	一般事務	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	ATM	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	資材店舗	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	機械センター	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	セルフスタンド	休	営業	12時迄	休	休	休	営業	休
下川支所	一般事務	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	ATM	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	資材店舗	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	スタンド	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
中川支所	一般事務	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	ATM	休	15時迄	休	休	休	休	休	営業
	資材店舗	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業
	スタンド	休	12時迄	休	休	休	休	休	営業

11月15日～16日の2日間、美深町農業経営研究会の研修旅行を開催しました。

1日目は、美瑛町を訪れ「丘のまち わいわいプール」内の木質チップバイオマスボイラーを視察しました。林業の概要や事業について地産地消といった農業にも共通する話題を交えながら教えて頂きました。ボイラー室では、熱気と燃焼庫内の真っ赤な炎に「おお」と歓声が上がった場面もありました。

2日目は、夕張市の「夕張シューパロダム」を訪れ、ダ

ムから見下ろす絶景に会員一斉にカメラを構えておりました。ダム監査廊内では、日本の技術の集大成に関心、改めて防災・水資源確保・発電としてのダムの役割を学習いたしました。

この度、視察・見学にご協力いただきました美瑛町林務課 担当者様、夕張川ダム総合管理事務所 担当者様の多大なるご厚意により、大変学びの多い研修旅行となりました。誠にありがとうございました。



美瑛町の林業概要を学習



ボイラー室、汗をかきながらも興味津々



テレビゲームの迷宮のようなダム内



雄大なダムの前で集合写真

## 女性部 研修旅行を開催！

11月18日～19日の2日間JA北はるか女性部の研修旅行を開催しました。

1日目は、中富良野町にあるワイナリー「ドメーヌゾン」を訪れガイド付き見学ツアーに参加しました。ツアーではステンレス樽が並んだ作業場を見学し、見学中に紹介された3種のワインの味わいや香りの違いを楽しみました。

2日目は、砂川市の馬具・革製品メーカー「ソメスサドル」に訪れました。染谷会長自ら会社概要をご紹介いただき、その後の工房見学も案内していただきました。丁寧で緻密な職人作業を間近で見ることのできる貴重な見学となりました。

この度、視察・見学にご協力いただいた担当者様の多大なるご厚意により、視て触れて味わう五感で楽しむ研修旅行となりました。誠にありがとうございました。



染谷会長と真剣に聞き入る女性部員



試飲では赤のスパークリングが好きな様子



ソメスサドル製の鞍の前で集合写真

## 青果振興会青年部視察研修会

10月30日から2日間、青果振興会青年部視察研修会が開催されました。

研修会には6名の部員が参加し、タキイ種苗の訪問と施設園芸セミナーに参加いたしました。

1日目は、タキイ種苗にて、フルーツマトの新品種や関係資材に係る特性などについて担当者より説明をいただきながら意見交換を交えました。

2日目の、施設園芸セミナーでは、今回の目的の一つであった下川町のフルーツマト普及に尽力いただいた上川農業試験場生産グループ 古山主査の講演を拝聴した他、施設園芸では重要となる環境制御技術について熱心に耳をかたむけ、実践における問題点などについて学びました。

また、講演の中では当地区のフルーツマトの取組みが「地域が動いたフルーツマト栽培」を議題に、JA北はるか青果生産振興会下川支部トマト部会 三島卓部会長と上川農業改良普及センター上川北部支所 長谷川専門主任が講師として取組について発表していました。



施設園芸セミナーにて発表中の三島部会長

## 下川

### 上川北部地区農業改良協議会研修会開催

11月20日に農業者人口減少を食い止める為に北はるか各町村の新規就農者の確保・育成の取組みや担い手育成の情報交換を目的に上川農業改良普及センター上川北部支所主催で上川北部改良協議会研修会が開催され、美深町・下川町・中川町役場・普及センター・JAの13名が参加致しました。

開催にあたり美深町農務課 山崎課長は、「農業の人口減少や少子高齢化、地域経済の縮小、インフラの老朽化などに伴う様々な社会課題の進行を止める為に、地域が連携して課題解決に向けて協力していかなければならないと思います。」と話されました。

その後、美深町農業振興センター 森田所長より、美深町のトドマツや道内産の森林を活用して建設された農業研修生等宿舎について、金子営農相談員からは下川町の下川町農村活性化センター「おうる」について、資料を使用しながら施設の概要や機能、業務内容の他、新規就農者への支援や取組みが説明され

ました。研修施設の有効活用や担い手育成について皆さんから活発な意見や質問が出され、今後の動向をより深く理解することができました。

研修の最後に上川農業改良普及センター上川北部支所 谷 地域係長は、「今後も関係機関連携のもと、継続的に情報収集を図り、地域農業の振興に努めていきたいと思います。」と話されました。



## 中川

### 中川町幼児センターへ農産物寄贈

10月29日中川町幼児センターへ小林組合長が訪問し農産物を寄贈しました。

幼児センターの園児たちは、小さな体で重たいもち米や南瓜・芋を受け取っていました。



園児のみなさんと集合写真

小林組合長は子供たちに「おいしいお餅や南瓜・芋を食べてさらに元気いっぱいになってください」と話されました。

園児たちは大きな声で「ありがとうございました」とお礼を述べました。

今年度は、もち米・南瓜・芋を各10kgずつ寄贈しました。



大きな箱をしっかりと受け取る園児さん

## 中川

### 中川町幼児センターもちつき大会

11月29日中川町幼児センターにてもちつき大会が開催されました。

使用されたもち米は10月29日に小林組合長が訪問し寄贈されたもち米を使用しており、幼児センターの園児たちは大きな杵を頑張って力いっぱいを持ち上げもちつきをしていました。

園児たちはつきたてのもちを雑煮や、きなこ・あんこ・納豆等の味付けをしておいしそうに食べておりました。



元気に餅つき



つきたてのお餅ぺろりと完食

# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

### 「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(励ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資材の活用。  
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)



今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。

東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



東野ひでき北海道後援会

## 理事会報告

### 第9回 理事会 10月25日(金)

#### ■決議事項

#### 決議事項

- 議案第1号 「信用事業方法書」の変更について
- 議案第2号 既存融資案件にかかる貸付条件変更について(下川支所)
- 議案第3号 組合員への融資について(中川支所)

#### ■報告事項

1. 第3四半期 監事監査の実施について
2. 道常例検査における指摘事項について
3. 各部からの報告事項について

### 第10回 理事会 11月28日(木)

#### ■決議事項

- 議案第1号 「役員推薦会議運営要領」の変更について
- 議案第2号 役員推薦委員の理事会推薦について
- 議案第3号 コンプライアンス・マニュアル等の改正について
- 議案第4号 「災害対策計画(BCP)」の変更について

- 議案第5号 営農懇談会の日程及び提出資料について(第7次農振・中経骨子案等)
- 議案第6号 クミカン精算時における融資及び仮渡金の対応について
- 議案第7号 リース契約及び災害資金の対応について(中川地区)
- 議案第8号 理事との契約について

#### ■報告事項

1. 10月末 決算推定の結果について
2. 令和6年度 収支シミュレーションについて
3. 年末手当の支給について
4. 各部からの報告事項について
5. 営農推進会議の結果報告について

### 1月行事予定

1月24日(金)

第7回監事会/第12回 理事会



## 令和6年を振り返って

令和6年は5月下旬からの断続的な降雨や低温で、各種作物のは種や定植作業が遅れるなど大変なスタートとなりました。9月以降は天候に恵まれ、秋の収穫作業は順調に進みました。各種作物の状況を振り返り、令和7年の栽培に生かしましょう。

### 水 稲

移植前後の5月下旬～6月上旬の低温強風により葉枯れや退色が生じ、活着が遅れました。分けつの発生も緩やかであり、6月下旬以降、イネドロオイムシによる食害が昨年引き続き見られました(写真1)。防除した水田も見られましたが、それ以外目立った病害虫は発生しませんでした。収量は令和4年には及ばないものの、平年より多くなりました。イネドロオイムシの食害が2年連続で見られています。育苗箱処理や本田防除など薬剤散布を検討しましょう。



写真1 イネドロオイムシの食害

### 園 芸

ナス科植物の外来害虫「トマトキバガ」によるトマト果実の食害が確認されました。繁殖力の高い害虫であるため、日頃から注意深く観察し、早く発生に気がつくことが重要です。葉に特徴的な被害(写真2)を確認したら速やかに薬剤防除を開始しましょう。本年発生したほ場では、早期からの発生が懸念されるため、移植時にかん注剤や粒剤による防除を検討しましょう。



写真2 幼虫と葉の食害  
幼虫の体長は約8ミリ程度。葉の薄皮を残して食害し、糞が端に蓄積される。

### 畑 作

秋まき小麦において「立枯病」の発生が確認されました(写真3)。立枯病は糸状菌による土壌病害で、4～5年以上連作しているほ場や有機物が少ないやせ地で多く発生します。感染すると実が入らず、細麦になるなど収量が低下します。病原菌は秋の幼苗時に侵入して越冬し、翌春に発病します。本病は登録農薬がありませんので、イネ科以外(エンパク、とうもろこしは除く)の作物との輪作や、有機物投入など防除対策を行いましょう。小麦ほ場において「クビアカクビホソハムシ」の発生が確認されました(写真4)。主に麦類の止葉をかすり状に食害します。イネのみを食害するイネドロオイムシと酷似していますが、クビアカクビホソハムシは麦類や牧草を食害します。現在のところ登録薬剤はありませんが、アブラムシ類の薬剤で防除が期待できるため、ほ場を確認し防除しましょう。



写真3 立枯病の様子



写真4 クビアカクビホソハムシ成虫

### 飼料作物

【牧草】萌芽期より生育が順調でしたが、5月下旬以降の断続的な降雨により収穫作業が大幅に遅れ、1番草収量は平年の約1割増でした。また1番草収穫後にエゾノギシギシの発生が多いほ場が見られましたので、草地維持のためにも除草剤を散布し、処理しましょう。

【飼料用とうもろこし】は種適期である5月中旬～下旬にかけて断続的な降雨によりは種作業が遅れました。は種後も降雨は続きましたが気温が高く推移し、一部地域を除き雄穂及び絹糸抽出期は平年並まで回復しました。収穫は9月中旬より始まり、好天が続いたことで作業は順調に進みました。すす紋病の発生は10月に収穫作業が行われたほ場で見られました(写真5)。すす紋病抵抗性品種の選定や、作付ほ場変更の検討を行いましょう。



写真5 すす紋病の様子



## 1 飲酒運転の根絶 「さめたはず…」その選択が車を凶器に変える

### (1)飲酒運転は悪質な犯罪！

飲酒運転は、悪質、危険な犯罪です。

飲酒は安全運転に必要な情報処理能力、注意力、判断能力を低下させ、運転に大きな影響を及ぼし、重大事故に繋がる危険を高めます。

一人一人が「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」ことを強く意識して、北海道から飲酒運転を根絶しましょう。

また、二日酔いで運転も「飲酒運転」になります。アルコールチェッカーなどを使用して身体にアルコールが残っていないことを確認しましょう。

### (2)飲酒運転は、運転者以外も処罰の対象！

飲酒運転は、運転者だけでなく、運転者以外の人にも重い処罰があることを知っていますか。

車を運転するおそれのある人にお酒を提供したり、お酒を飲んでいる人に車を提供したり、飲酒運転の車に同乗した場合は、飲酒運転と同様に処罰の対象になります。

### (3)「ハンドルキーパー運動」で飲酒運転を防止！

ハンドルキーパー運動とは、仲間と車で飲食店に行く場合は、あらかじめお酒を飲まない人（ハンドルキーパー）を決めて、その人が仲間を自宅まで送り届けることです。

お酒を提供する飲食店では来店「客が車で来ていないか」車で来ている場合は「ハンドルキーパーは誰なのか」を確認して、飲酒運転を防ぎましょう。

### (4)飲酒運転情報の提供を！

北海道警察では、悪質な飲酒運転を根絶するために「飲酒運転ゼロボックス」による飲酒運転情報や、飲酒運転根絶に向けたアイデアを受け付けておりますので、皆様のご協力をお願いします。

## 2 雪による事故の防止 慣れた雪かき 危険がいっぱい

### (1)早めの氷雪下ろしを

例年、屋根からの氷雪の落下により、下敷きになるなどの事故が発生しています。

氷雪が屋根からせり出している軒下などは、危険ですので近づかないようにしましょう。

また、氷雪は早めに下ろして、落氷雪による事故を防止しましょう。

### (2)雪下ろし作業は複数で行い安全確保

例年、屋根の雪下ろし中に、ハシゴや屋根から転落する事故も発生しています。

作業するときは、補助者を置くなど複数で行うとともに、転落防止や万一に備え、万全の措置を講じ、自身の安全を確保しましょう。

### (3)除雪機に注意

例年、除雪機による除雪作業中に、衣類を巻き込まれたり、下敷きになるなどの事故も発生しています。

除雪作業時は、作業に適した服装を着用し、エンジンを掛けたまま雪詰まりを取り除くなどの作業は絶対にやめましょう。

### 組合員の異動

令和6年11月30日現在  
※( ) 前号比

地区名	正組合員数	准組合員数
美深・音威子府	(-5名) 266名	(-3名) 528名
下川支所	(+1名) 141名	(-1名) 181名
中川支所	(-16名) 67名	(-10名) 170名
合計	(-20名) 474名	(-10名) 879名
	1,353名	

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
 昨年物価高騰・異常気象・米不足等…厳しい年となりましたが、巳年は「再生と復活」の年だそうです。新しい変化が訪れる年になるといいですね。  
 実は今回で「晴るばる」は発行200回目！これも皆様のご支援・ご協力のおかげに他なりません。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、広報担当よりお願い申し上げます。

(H・T)